

情報処理基礎教育の現状報告

—— 平成 19 年度「情報処理基礎 A・B」の実施評価 ——

飼 原 壽 夫

要旨

本稿では、本文の「2. 情報教育」「学校教育情報化政策」の項で、情報処理教育が、近年、政府の IT 戦略の中に具体的数値目標が挙げられるほどに重要な位置づけがされていることを紹介している。「情報環境の整備状況」では、大都市圏、中でも近畿圏の情報教育環境の整備が特に遅れていることの統計を示している。「普通教育に関する各教科」としての「情報」の項では、高等学校必修科目未履修問題等からこの科目の取り扱い方を知ることができる。「3. 文部科学省が指導する初等中等教育での情報化への対応」の項で、現状の政策や行政の支援の取り組みを知ることができる。「4. 本学での平成 19 年度カリキュラム改訂以前からの取り組み状況」の項で、カリキュラム実施上の従来からの問題意識を確認した。「5. 本学での平成 19 年度 (2007 年度) カリキュラム改訂以降の取り組み状況」の中で、2007 年度春期・秋期を通じてのアウトソーシングによる実施評価を考える上での基礎データの報告をしている。順に、「アウトソーシングの導入」「2007 年度情報処理基礎 A (春期) 実施状況」「2007 年度 情報処理基礎 B (秋期) 実施状況」「IT スキルアンケートの授業前後での比較」「授業についてのアンケートの実施」のそれぞれの項目で現状の到達度を説明している。

政府が今日まで進めてきた情報化政策は、資料を見る限り予定通りの成果を上げていない。理由は、様々に解説されているが、大学に入学してくる学生にとっては、情報処理教育を受ける最後の機会となる。したがって、入学時点での知識レベルの如何に関わらず、「情報活用の実践力」、「情報の科学的な理解」、「情報社会に参画する態度」を修得できる機会を提供しなければならない。

1. はじめに

情報処理教育が始められてからすでに 20 年を経過しているが、当初「パソコン操作の習得」程度に目標が置かれていたものが、近年、政府の IT 戦略の中に具体的数値目標が挙げられるほどに重要かつ喫緊の課題として位置づけられている。大学教員の立場からは、今日の大学が置かれた状況の中での、情報処理教育の目的を理解した上で、効果的な授業の実施を進めなければならない。

政府が情報化政策を進める上で公開している参考資料を見つつ、現状の整備状況を示す統計、高等学校での教科「情報」の実施状況、学生の大学入学時点での IT スキルの現状、等の基礎資料を収集した。本学での情報処理基礎教育を実施する上で経験してきた従来からの問題点を、カリ

キュラムの見直しや、アウトソーシングを活用した実施体制の変更を通じて、解消する方策を探っている。2007年度に1年を通じての新体制での実施ができたので、現時点での評価をまとめて公表することにした。

2. 情報教育

「学校教育情報化政策」

学校教育の情報化政策は、IT 戦略本部（首相官邸高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部）による、2001年「e-Japan 戦略」 [1] [2]を経て、2006年「IT 新改革戦略」（平成18年1月IT戦略本部決定）では、文部科学省による平成18年度「学校教育情報化推進総合プラン」に具体化され、（1）ICT環境整備の推進、（2）教員のICT活用指導力の向上、（3）ICT教育の充実、（4）校務の情報化の推進、（5）情報モラル教育の充実、が目標に掲げられている。

「情報環境の整備状況」

2007年3月の調査実態では、光ファイバー接続率は55.5%（目標100%）、校内LAN整備率は56.2%（目標100%）、教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数は7.3人/台（目標3.6人/台）、コンピュータを使って指導できる教員の割合は76.8%（目標100%）、教員用コンピュータの整備率は43.0%（目標、教員1人1台）である。平成17年度までのe-Japan戦略での目標も概ね100%であったが [3] [4] [5]、「IT 新改革戦略」では2010年（平成22年度）までの達成を目標としている。

整備状況の自治体間の格差が大きいことも課題とされており、PCやLAN整備は大都市圏が弱い。近隣府県では、コンピュータ1台当たりの児童生徒数（奈良県46位9.1人/台）、校内LAN整備率（奈良県46位29.0%、大阪府44位33.7%、和歌山県43位39.9%）、教員の校務用コンピュータ整備率（大阪府47位26.2%、奈良県46位28.0%、和歌山県43位32.4%）の低調さが続いている。（平成18年度、速報値） [6]

「普通教育に関する各教科」としての「情報」

文部科学省 新学習指導要領 『高等学校学習指導要領』 第10節 情報（2004年） [7]によれば、教科「情報」は、高度情報化社会に対応した人材を育成するために、情報の収集・分析から発信までを総合的に学ぶ教科であり、単にコンピュータの操作方法を教える教科ではないとされ、普通教育に関する各教科としての「情報」の目標を、「情報活用の実践力」、「情報の科学的な理解」、「情報社会に参画する態度」の3つの要素に置いている。普通教科の科目「情報A」では、「情報活用の実践力」の育成に重点が置かれ、科目「情報B」では、「情報の科学的な理解」に（理系的）、科目「情報C」では、「情報社会に参画する態度」に重点を置く（文系的）とされている。

教科「情報」は、2003年度（平成15年度）より設置されたが、当座の教員をまかなうことを優先したために現場の人材育成が進まなかったこと、「情報教育」を職業教育や就職の基礎ととらえ、「生徒の進路（大学受験）と関係がない」と軽視されたことなど、様々な事情で現状では「情

報」の教育は不振である。特に、教科「情報」を学んだ生徒が大学を受験する 2006 年度入試の際に社会問題となった高等学校必修科目未履修問題では、「情報」が「世界史」に次いで未履修が多かった。[8]

これらの事情は、IT 戦略本部や文部科学省が、e-Japan 構想のもとに長年にわたり様々な施策を提示しても目標達成を阻む要因が根強く残っていることの表れであろう。

3. 文部科学省が指導する初等中等教育での情報化への対応

文部科学省は、「情報化への対応」(ポータルサイト) [9]に、主な施策の解説、研究成果、参考資料を掲載している。「情報教育の実践と学校の情報化」～新「情報教育に関する手引き」～(平成 14 年 6 月文部科学省) [10]により教員向け指導資料を提供しているが、最近ではより具体的に、前記、平成 18 年度「学校教育情報化推進総合プラン」 [11]の目標に沿って、教員研修の充実、教育用コンテンツの開発・普及、教育情報ナショナルセンター機能の充実を進めている。「情報化への対応」のページからリンクが用意されており、「情報モラル指導ポータルサイト」 [12]、「学力向上 ICT 活用指導ハンドブック」、「情報モラル研修教材『5分でわかる情報モラル』」、「情報モラル」授業サポートセンター、「IT 授業」実践ナビ、「e 授業-授業で IT を使ってみよう」、「校内ネットワーク活用ガイド」、「教育用コンテンツの紹介」などが利用できるようになっていいる。その他、教育情報ナショナルセンター機能の整備状況についての紹介もされている。

4. 本学での平成 19 年度カリキュラム改訂以前からの取り組み状況

「情報処理基礎 A」「情報処理基礎 B」のカリキュラム実施上の従来からの問題意識を引き継いでいるので、簡単に紹介する。

本学の授業を担当頂いている鳥谷善史講師が、2002 年(平成 14 年)に授業報告として「情報処理基礎 A・B」の報告をされている [13]。この授業の目的を、コンピュータ・リテラシーの基礎的な部分を身につけることとし、具体的に以下の項目を挙げている。

- ・情報機器の基本的な仕組みの知識
- ・タイピング技術
- ・ファイル管理能力
- ・電子メールとインターネットの利用
- ・情報倫理の修得
- ・各種ソフトの習得 (Word, Excel, PowerPoint)

また、最初の授業に、学生の情報処理教育に関する学習履歴をアンケート調査した結果から、以下のように授業方針の確認をされている。

『アンケート調査の「Q1 パソコンを持っていますか?」と「Q5 タイピングはどの程度できますか?」の結果から、パソコンの所有率は、約 5 割以上であるにも拘わらず、正しいタッチメソッドを習得している学生は、1 割にも満たないことがわかった。また、「Q9 中学校、高校で勉強したもの」の結果では、ワープロソフトが約 6 割と群を抜いて多くの学生が学習してきて

いるにもかかわらず、タイピングの基本ができていないことがわかったのであった。(中略)概ね、当初の目的である、基礎的項目のタイピング技術やファイル管理能力の習得であっても問題はな
いと考えた。』(本文より引用 [13])

平成 16 年度情報処理基礎打ち合わせ会で、教育方針と留意事項の資料が授業担当者に示された
[14]。教えていただきたい教育内容として、以下のものを示している。

a. 初歩的な技術の習得

- ・パソコン・ネットワークの基本的知識
- ・タイピング技術の向上
- ・基本アプリケーションの初歩 (iMail (Web メール)、Word、Excel、PowerPoint)

b. 教養面の教育

- ・ネットマナー
- ・情報処理室の利用に際してのマナー
- ・情報処理に対する意欲の向上

成績評価に関しては、平成 15 年度秋期の評価 (優、良、可、不可 (再試験可、再試験不可、追
再試験不可)) をまとめた結果、クラスによって千差万別であって望ましい状態とは言えないと述
べている。

平成 17 年度情報処理基礎打ち合わせ会で前年度と同様に、教育方針と留意事項の資料が授業担
当者に示された [15]。教えていただきたい教育内容は前年度と同様であった。

成績評価に関しては、16 年度の成績をクラス別にまとめて比較した結果、前年度と比べるとク
ラスによる極端な違いは減ったが、担当者によって成績評価の基準が異なっている様子がうかが
えると述べ、引き続きタイピング上達度の確認テストを春期 2 回、秋期 1 回実施するとしている。

5. 本学での平成 19 年度 (2007 年度) カリキュラム改訂以降の取り組み状況

平成 19 年度より、必修科目「情報処理基礎 A」、「情報処理基礎 B」、「情報と人間」、と、選択
科目「情報処理 A」、「情報処理 B」、「電子社会とネットワーク」、「情報とメディア」を提供して
いる。科目の目標をどこに置くべきかに関しては、高等学校新指導要領での教科「情報」を学ん
だ生徒が大学を受験する 2006 年度入試以降は、かなりレベルアップした内容に変更すべきものと
考えていたが、高等学校必修科目未履修問題が明らかとなり、かえって多様なレベルの学生に対
しての教育を行う必要に迫られることとなった。必修科目という性質上、実習中心の科目も、講
義の科目も、予備知識ゼロの学生を想定しつつ、ある程度高校までに修得してきた学生に対して
もより進んだ学力を付けさせる授業にする必要があった。

「アウトソーシングの導入」

前項記載の平成 19 年度カリキュラム改訂以前からの取り組みでの問題点の解消を懸案として
きたので、平成 18 年度から試験的に導入していた派遣講師による「情報処理基礎 A・B」の実施
を、平成 19 年度から、全クラスで実施することにした。派遣講師による実施、つまり授業のアウト

トソーシングにより様々な効果を期待していたが、特に、学科ごとの同一曜日時限開講による能力別クラス編成、授業内容の統一、成績評価の統一を早期に実現できたと考えている。

本学での授業のアウトソーシングは初めての試みであったので、講師の採用基準、管理・連絡体制、実施状況の把握と評価の体制、業務委託先・専任教員・事務センターの責任分担、個人情報保護の対策、など試行錯誤を積み重ねながらの体制の定着を進めているところである。

昨年度の平成 19 年度春期・秋期から今年度春期の実施報告をもとに、以下に現状報告をする。授業の期間中は、週報の形式で各講師からの毎回の授業実施報告を受け、各期の成績判定が終わったのち、春期、秋期ごとの実施報告書の提出を受けている [16] [17] [18]。

「2007 年度 情報処理基礎 A (春期) 実施状況」

業務委託先のパナソニックラーニングシステムズ株式会社よりの報告書をもとに、以下に 2007 年度の実施報告を行う [16] [17]。

初回授業にて、IT スキルアンケートを実施した (表 3 IT レベル診断アンケート 質問項目)。Word, Excel, PowerPoint, Internet & Mail のそれぞれのスキルレベルを学生に自己評価してもらい、集計結果をもとに成績順にクラス分けを実施 (能力別クラス編成)。

テキストは、『情報処理』(プロデュース社) [19]を使用している。同テキストには、本学の実習室やネットワーク環境を使用する際に必要な知識に関する資料も加えられている。

学習内容の定着を図り評価の基礎とするため、4 講目に課題 A (PC 基礎、Internet & Mail に関する知識問題)、10 講目に課題 B (Word の実技問題)、15 講目に総合課題 (知識問題と Word, PowerPoint の実技問題) を実施、成績評価は、出席点 60 点+課題点 35 点+平常点 5 点として算出した。春期総合成績の学科別比較と成績の分布を、表 1 春期総合成績 集計表、図 1 春期総合成績 (クラス別平均点比較) 図 2 春期総合成績 (成績分布) に示す。

これらの結果から、成績データのクラス内、クラス間のばらつきの程度は問題ないと思われる。

表 1 春期総合成績 集計表

クラス	インテリア学科			被服学科			食業学科				国文学科		ライフ学科		英米文学科		全体
	月4限1	月4限2	月4限3	月5限1	月5限2	月5限3	木3限1	木3限2	木3限3	木3限4	木4限1	木4限2	金3限1	金3限2	金4限1	金4限2	
平均点	85.7	89.4	87.6	85.6	90.9	93.1	91.4	91.8	95.2	95.6	92.3	89.6	87.4	89.9	83.2	89.9	90
	87.6			89.5			93.9				91		88.5		86		
標準偏差	24.8	10.3	15.4	18.2	7.5	5.1	5.9	15.3	3.6	3.1	7.9	9.2	8.8	6.5	18.1	8.9	12.2
	18.1			12.6			7.4				8.6		7.9		15.2		
登録人数	29	29	18	38	37	27	29	20	37	36	32	31	36	26	29	21	475
60点以上	27	28	17	36	37	27	29	19	37	36	32	31	36	26	27	21	466

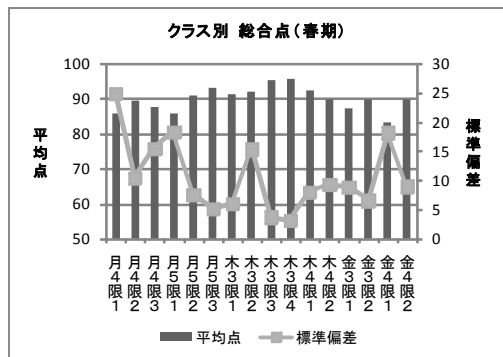


図 1 春期総合成績 (クラス別平均点比較)

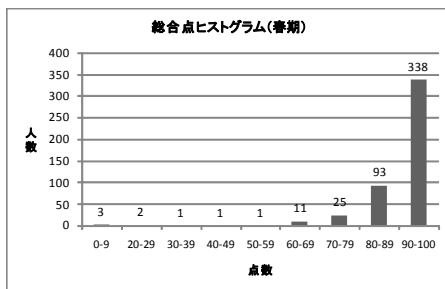


図 2 春期総合成績 (成績分布)

「2007 年度 情報処理基礎 B（秋期）実施状況」

春期と同じく報告書をもとに解説する。春期の復習の後、Excel と HTML 文書の実習を行う。14 講目に総合演習、15 講目に総合課題を実施。総合課題は、HTML に関する知識問題と、Excel の実技問題で実施。成績評価は、出席点 60 点+課題点 35 点+平常点 5 点として算出した。秋期総合成績の学科別比較と成績の分布を、表 2 秋期総合成績 集計表、図 3 秋期総合成績（クラス別平均点比較） 図 4 秋期総合成績（成績分布）、に示す。

春期と同様、これらの結果から、成績データのクラス内、クラス間のばらつきの程度は問題ないと思われる。

表 2 秋期総合成績 集計表

クラス	インテリア学科			被服学科			食料学科				国文学科		ライフ学科		英米文学科		全体
	月4限1	月4限2	月4限3	月5限1	月5限2	月5限3	木3限1	木3限2	木3限3	木3限4	木4限1	木4限2	金3限1	金3限2	金4限1	金4限2	
平均点	88.0	85.9	87.8	82.7	88.8	88.4	90.9	94.4	92.8	94.2	90.6	90.2	85.6	87.9	85.9	88.3	89.0
	87.1			86.6			93.0				90.4		86.7		86.9		
標準偏差	8.4	10.0	7.2	7.5	6.8	6.4	6.0	2.5	7.2	4.9	9.6	10.4	10.5	9.1	8.6	10.9	8.6
	8.8			7.4			5.8				9.9		9.9		9.6		8.6
最高点	98	96	97	97	100	100	100	100	100	100	100	100	99	100	97	100	100.0
最低点	69	60	74	61	70	77	79	91	66	78	63	65	60	71	69	62	60.0
登録人数	27	30	17	36	36	27	29	20	37	36	31	30	35	26	29	19	465
受験者数	24	28	16	32	35	26	27	19	37	36	31	29	30	26	25	19	440

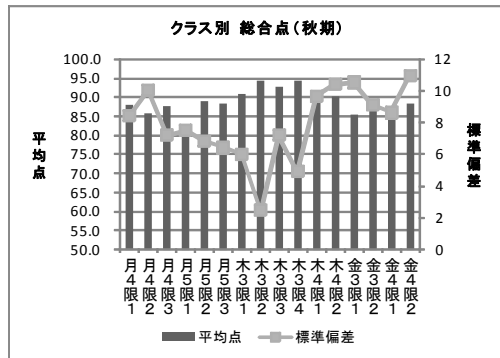


図 3 秋期総合成績（クラス別平均点比較）

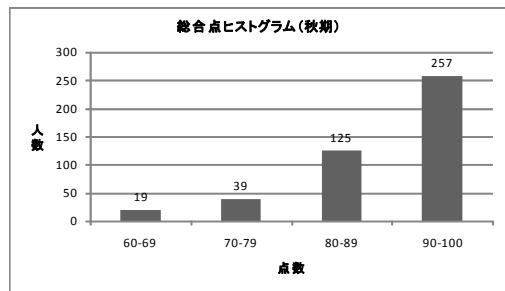


図 4 秋期総合成績（成績分布）

「IT スキルアンケートの授業前後での比較」

秋期の 15 講目には、春期の最初に実施した、IT スキルアンケートを再度実施しており、春期のものと成績を比較している。

各分野の質問内容を、表 3 IT レベル診断アンケート 質問項目 に示す。集計の結果を、表 4 IT スキルアンケート集計、図 5 IT スキルアンケート 授業前後比較、図 6 IT スキルアンケート 分野別授業前後比較 に示す。

IT スキルアンケートの集計を見れば、授業の前後で、知識・技能の習得や向上が達成されたと書いて良い。

図 6 IT スキルアンケート 分野別授業前後比較 を詳しく見ると、春期の授業開始前に、Word の使用経験や Internet & Mail の使用経験がある学生がかなりあることがわかる。この傾向は、近

年の一般的傾向と考えられる。Excel と PowerPoint は経験がない学生の割合が高く、学習を容易にするためには、これらを習得した後の利用場面をより具体的にイメージさせる必要があると思われるので、テキストの改善や補助教材の提示の試みを検討すべきであろう。

表 3 IT レベル診断アンケート 質問項目

IT レベル診断アンケート内容										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Word	文字列の挿入、削除、移動、コピーができる	文書の印刷、保存ができる	文字の書式設定(フォント、スタイル、サイズ、色、下線など)や文字の配置と箇条書きの設定ができる	ページ設定で、用紙や余白の設定ができる	段落の書式設定(行間、段落間など)および、表の挿入、編集(セルの結合、高さ幅の変更、罫線の設定など)ができる	図形の描画、削除、編集(塗りつぶしや線の設定、配置など)ができる	タブ、インデント、段組を設定して、文書の体裁を整えることができる	ヘッダーとフッターの作成と変更ができる	セクション切りを挿入し、セクションごとに異なる設定(用紙の向き、ヘッダー・フッター、ページ罫線など)ができる	別アプリケーションのデータを使用した文書および、差し込み印刷を使用したはがきや宛名ラベルが作成できる
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
Excel	文字列、数値、日付の入力および編集ができる	数式(四則演算)の作成および編集ができる	セルの書式設定(表示形式、配置、フォント、罫線、網掛けなど)の設定および表の編集(行列の挿入や削除、行高や列幅の設定など)ができる	SUM、AVERAGE 関数が使える	関数(絶対参照の指定を含む)の入力およびワークシートの活用(挿入、削除、移動、コピー、3D 集計、統合)ができる	グラフの作成、編集およびグラフを含めた印刷の設定ができる	データベース機能(並べ替え、オートフィルタ、テーブルフォームなど)が使用できる	活用ツール(条件付き書式、ウィンドウ枠の固定、ふりがなの表示など)が使用できる	データベースの自動集計が行える	ピボットテーブルやピボットグラフを使用してデータ分析ができる
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
Power Point	画面の表示モードの切り替えおよびテキストの入力ができる	スライドショーの実行、中断ができる	新しいプレゼンテーションの作成(デザインテンプレート、ウィザードの使用)とスライドの追加、削除、移動、コピーができる	テキストの書式設定(フォント、スタイル、サイズ、色など)や配置設定ができる	箇条書き設定とレベルの変更ができる	オブジェクト(グラフ、表、図形など)の挿入およびアニメーションの設定、画面の切り替え効果の設定ができる	ヘッダーとフッターの挿入、編集ができる	さまざまな形式(スライド・ノート、配布資料等)での印刷ができる	環境に応じて、プレゼンテーションを実行するための設定(リハーサル、スライドショーファイルの保存など)ができる	タイトルマスター、スライドマスターの編集ができる
	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
Internet & Mail	インターネットでホームページの閲覧(リンク、アドレス指定、検索など)ができる	電子メールソフトを起動し、メールの受信や確認ができる	インターネットの概要を理解し、ホームページ閲覧の便利な機能(お気に入り、履歴、文字サイズ変更など)を使用できる	メールの新規作成および送信ができる	メール送信時の署名の挿入やファイルの添付ができる	インターネット上のマナーを理解している	インターネットのセキュリティを理解し、接続までの準備(接続方法の選択、機器やソフトウェアの準備、プロバイダとの契約など)ができる	電子メールの概要(仕組み、電子メールソフトなど)を理解している	インターネットや電子メールの接続、設定ができる	インターネットやメールのトラブルに対して適切な対処方法を理解している

※各問いに「できる」「一部できる」「できない」のいずれかで回答

表 4 IT スキルアンケート集計

春期初回授業実施人数 464名 秋期最終授業実施人数 420名

春期初回授業実施結果

秋期最終授業実施結果

	Word	Excel	Power Point	Internet & E-Mail
平均	37.8	19.2	29.3	52.5
最高点	95	95	95	100
最低点	0	0	0	0

	Word	Excel	Power Point	Internet & E-Mail
平均	73.0	63.0	65.4	67.5
最高点	100	100	100	100
最低点	15	5	5	10

※各問ごとに「できる」は10点、「一部できる」は5点、「できない」および未回答は0点で集計
1教科100点満点

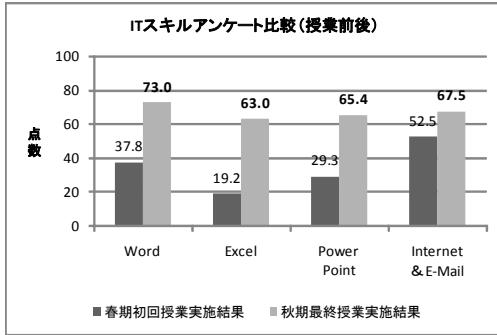


図5 ITスキルアンケート 授業前後比較

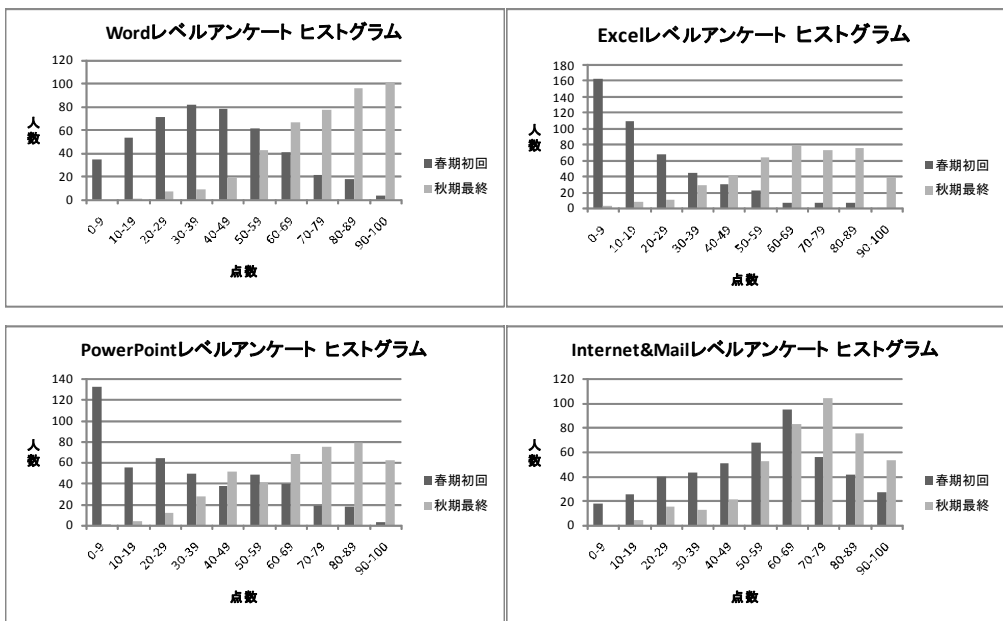


図6 ITスキルアンケート 分野別授業前後比較

「授業についてのアンケートの実施」

さらに、秋期の15講目には、授業についてのアンケートも収集している。表5 授業についてのアンケート質問項目と集計結果、図7 授業についてのアンケート 回答比較グラフ に結果を示す。

授業についてのアンケートの集計結果から、授業の内容理解ができたか、テキストは有効に使われたか、講師の説明の分かり易さ、講師の質問への対応、学生自身の興味の持続性など多岐にわたる質問に対して、良好な評価を得ていると判断できる。ただし、授業の進み具合は適正であったかの質問に対しては、37%の学生が“かなり速い”または“速い”と感じている点は注意を要する。その原因は現時点では不明であるが、今後、テキストの分かり易さの向上、補助教材の

工夫、学生の予備知識や意欲・理解力の差などへの対処、等をさらに検討する余地があると考えている。

表5 授業についてのアンケート質問項目と集計結果

授業についてのアンケート

※秋期最終授業でITスキルアンケートとともに実施 420名

番号	質問	1	2	3	4	5
1	授業の内容に興味を持てましたか？	かなり持てた	持てた	持てなかった	まったく持てなかった	
		147	251	21	1	
2	授業の内容を理解できましたか？	かなりできた	できた	できなかった	まったくできなかった	
		42	329	48	1	
3	修得した内容を活用できると思いますか？	かなりできると思う	できると思う	できないと思う	まったくできないと思う	
		105	263	52	0	
4	テキストを購入しましたか？	購入した	購入しなかった			
		413	7			
5-1	テキストの内容は効果的でしたか？	かなり効果的	効果的	効果的でない	まったく効果的でない	
		70	310	32	1	
5-2	なぜテキストを購入しなかったのですか？	人からもらった、または、借りたから	テキスト代が高いから	必要でないと感じたから	買いそびれてしまった	その他
		1	2	1	2	1
6	授業の進み具合は適正でしたか？	かなり速い	速い	ちょうど良い	遅い	かなり遅い
		17	140	239	23	1
7	担当教員の説明はわかりやすかったですか？	かなりわかりやすかった	わかりやすかった	わかりにくかった	まったくわからなかった	
		162	250	7	1	
8	担当教員は質問や相談に応じてくれましたか？	かなり応じてくれた	応じてくれた	応じてくれなかった	まったく応じてくれなかった	
		226	191	3	0	
9	一番興味を持った内容はどれですか？	Word	Excel	PowerPoint	HTML	その他
		129	114	59	109	9
10	積極的な態度で参加できましたか？	かなりできた	できた	できなかった	まったくできなかった	
		139	261	20	0	
11	今後も他の情報処理の授業を受けてみたいですか？	ぜひ受けてみたい	受けてみたい	受けたくない	まったく受けたくない	
		85	259	73	3	

6. まとめ

情報処理教育が始められた当初「パソコン操作の習得」程度に目標が置かれていたものが、近年、政府のIT戦略の中に具体的数値目標が挙げられるほどに重要な政策の中に位置づけられている。大学で情報処理教育を担当する立場からは、今日の大学が置かれた状況をよく理解し、情報処理教育の目的を理解した上で、効果的な授業の実施を進めなければならない。

政府が今日まで進めてきた情報化政策は、資料を見る限り予定通りの成果を上げていない。理由は、様々に解説されているが、大学に入学してくる学生にとっては、社会に出るまでの最終段階としての高等教育に当たるわけで、情報処理教育を受ける最後の機会となる。したがって、入学時点での知識レベルの如何に関わらず、「情報活用の実践力」、「情報の科学的な理解」、「情報社会に参画する態度」を修得できる機会を提供しなければならない。

本学での情報処理基礎教育を実施する上で経験してきた従来からの問題点を、カリキュラムの見直しや、アウトソーシングを活用した実施体制の変更を通じて解消する試みを続けており、今回、2007年度「情報処理基礎A・B」の実施状況を分析して現時点での評価をまとめて公表する

ことができた。情報処理基礎教育に関係する方々に限らず、本資料から参考となる情報やヒントを得ていただくことが可能なら幸いである。

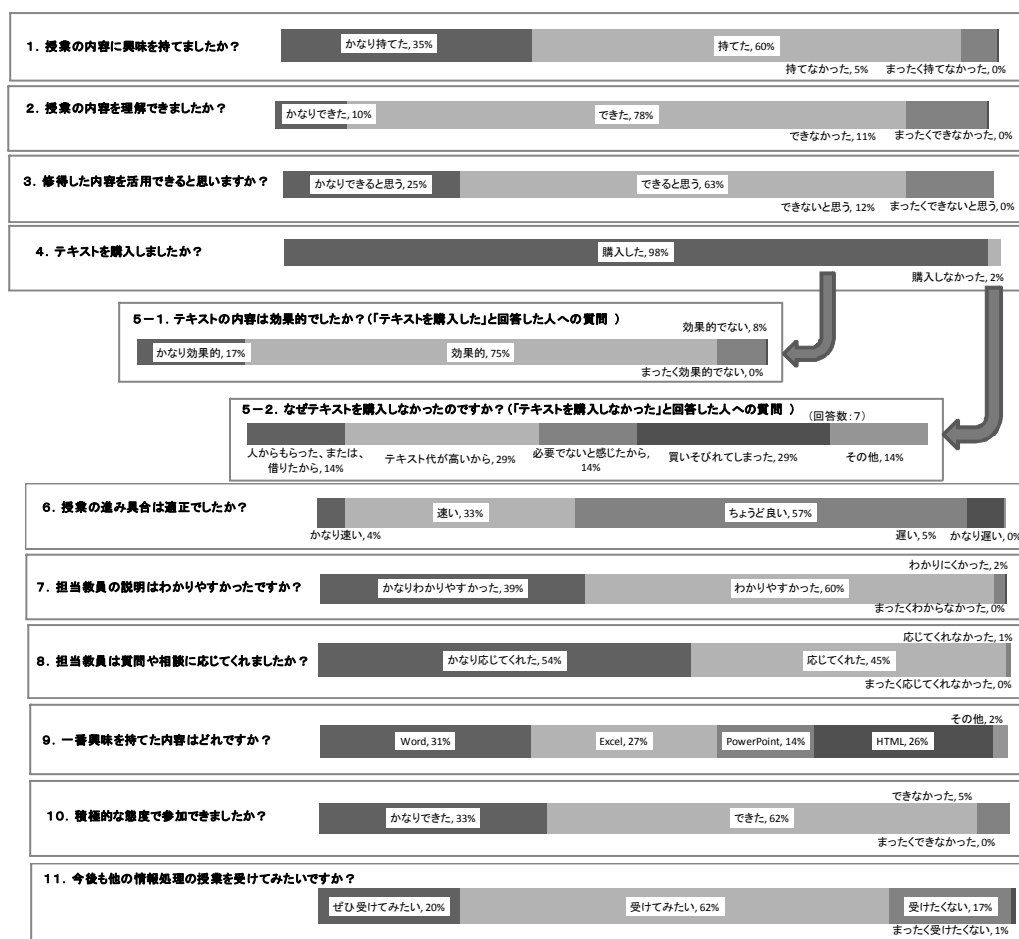


図 7 授業についてのアンケート 回答比較グラフ

参考資料

- IT 戦略本部. e-Japan 戦略 II 4. 利活用時代の IT 人材の育成と学習の振興 P29. (オンライン) 平成 15 年 7 月 2 日.
- 一. e-Japan 重点計画一2004 (2) 学校教育の情報化等 P70-P74. (オンライン) 平成 16 年 6 月 15 日. <http://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/kettei/040615honbun.pdf>.
- 文部科学省. 学校のコンピュータ整備及びインターネット接続について. (オンライン) http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/04120301.htm.
- 一. 平成 17 年度の公立小中高等学校等における教育用コンピュータの整備、校内 LAN の整備及びインターネットの接続について. (オンライン) http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/05060401.htm.

5. ー. 情報教育に関する教員研修について . (オンライン)
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/04120303.htm.
6. **財団法人インターネット協会監修**. インターネット白書 2008 「学校のインターネット活用動向」 P93.
2008.
7. **文部科学省**. 高等学校学習指導要領 第 10 節 情報. (オンライン)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301d/990301k.htm.
8. **Wikipedia**. 情報 (教科). フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』. (オンライン)
<http://ja.wikipedia.org/>.
9. **文部科学省**. 情報化への対応 (ポータルサイト) . (オンライン)
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/main18_a2.htm.
10. ー. 情報教育の実践と学校の情報化 . (オンライン)
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/020706.htm.
11. ー. 学校教育情報化推進総合プラン. (オンライン)
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/07052402.htm.
12. 「**情報モラル教育**」指導手法等検討委員会 編. 情報モラル指導ポータルサイトーやってみよう情報モラル教育ー. (オンライン) <http://kayoo.info/moral-guidebook=2007/>.
13. **鳥谷善史**. 情報処理基礎 A・B. : 大阪樟蔭女子大学日本語研究センター報告 10 号, 2002.3.
14. **共通教育委員会**. 情報処理基礎打ち合わせ会資料. 平成 16 年 3 月 24 日.
15. ー. 情報処理基礎打ち合わせ会資料. 平成 17 年 3 月 23 日.
16. **エイコーグループ**. プロデュースの情報処理教材. (オンライン)
<http://www.eikog.co.jp/pro/joho/index.html>.
17. **パナソニックラーニングシステムズ株式会社**. 2008 年度「情報処理基礎 A」IT スキルアンケート報告資料.
2008.6.9.
18. ー. 2007 年度「情報処理基礎 B」報告資料. 2008.6.9.
19. ー. 2007 年度「情報処理基礎」春期報告資料. 2007.9.14.